

# あらゆる子どもたちのためになる 教育：多様な文化背景の尊重

## 概要

我が国では民族の多様化が急速に進んでいます。その傾向は都市部で顕著であるものの、全国に広がっています。今後さらに民族的背景の異なる学習者が増え、言語の多様化も進むでしょう。2043年までに国内の学習者の4人に1人が、エスニックコミュニティ（少数民族社会）の出身者で占められると予想されています。オークランドでは、学習者の5分の2以上がアジア系になると予想されています。

そのため、こうしたエスニックコミュニティの子どもたちも含め、全ての子どもたちのニーズに応える教育が必要不可欠です。この報告書では、多くのエスニックコミュニティの子どもたちが優れた学業成果をあげる一方で、人種差別や孤立、自分の文化が理解されないことに悩む姿が報告されています。

我が国がこれらの青少年にとって素晴らしい学びの場となるためには、大々的な変革が必要です。

### 本改革案について一般から意見を求めます。

次のリンクから意見をご提出ください。

- <https://www.surveymonkey.com/r/DraftLTIBSubmission>
- 次の言語で質問が用意されています：英語、アラビア語、標準中国語、ヒンディー語、日本語、クメール語、韓国語、スペイン語、タガログ語、ベトナム語
- すべての質問に答える必要はありません。

回答提出期限は2022年12月20日(火)です。

## 民族の多様性とは？

多様性には、民族・文化・言語・アイデンティティ・宗教の違いなど、さまざまな形態があります。本プロジェクトでは、民族の多様性とそれに関連する言語・文化・宗教の多様性に焦点を当てます。民族とは、人々が帰属意識を持つ、あるいは自己のアイデンティティを見出す民族集団として定義されます。本書では、アフリカ・アジア・ラテンアメリカ・中東のエスニックコミュニティを取り上げています。<sup>1</sup>

## 国内の学校における民族の多様性の実態と今後の変化の可能性について

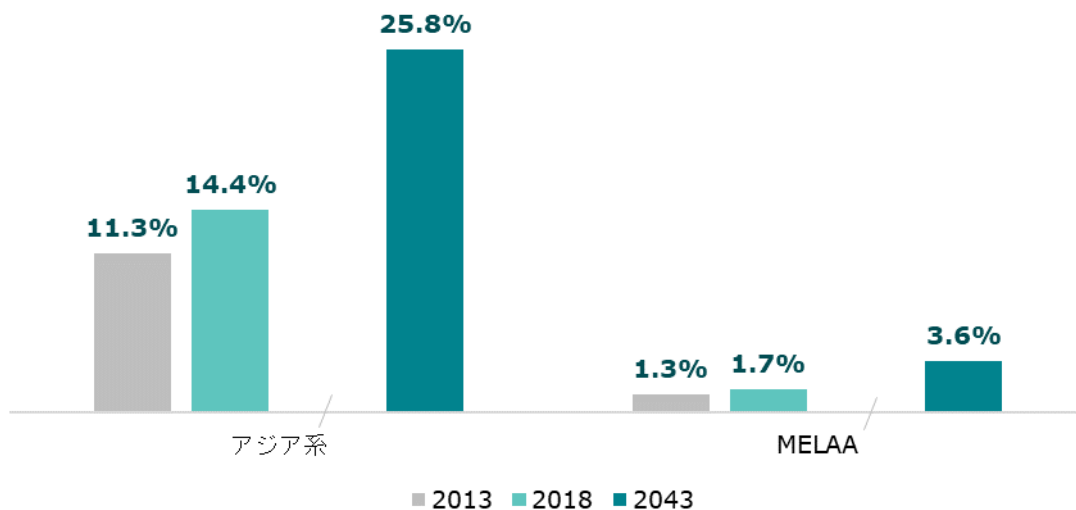
我が国では民族の多様化が急速に進んでいます。その傾向は都市部で顕著であるものの、全国に広がっています。今後は幅広い民族的背景を持つ学習者が増えるでしょう。学習者の民族アイデンティティの分布は、

<sup>1</sup> エスニックコミュニティ省は、アフリカ・アジア・ラテンアメリカ・中東・欧州大陸を出自とする人々をエスニックコミュニティと定義していますが、アンケート調査に寄せられた回答と入手可能なデータに基づき、本書には欧州大陸系の学習者を含めていません。

本改革案について一般から意見を求めます。

2043年までにはアジア系が全体の4人に1人(26%)を上回り、ほぼ20人に1人(3.6%)が中東・ラテンアメリカ・アフリカ(MELAA)系になると予想されています。オークランドでは、学習者の5人に2人以上(43%)がアジア系になるでしょう。

自らの民族アイデンティティを MELAA 系またはアジア系とする子どもたちの割合

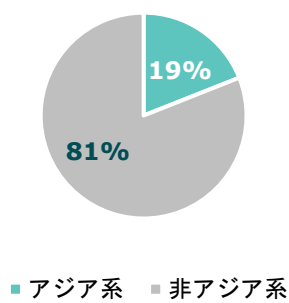
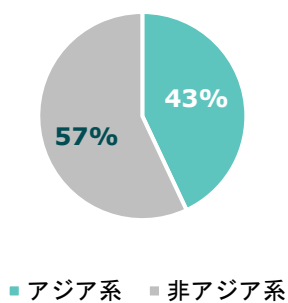


出所：統計局。2018年人口と世帯の国勢調査

2043年にオークランドとサウスランドでアジア系を自認する子どもの割合

オークランド：2043年

サウスランド：2043年



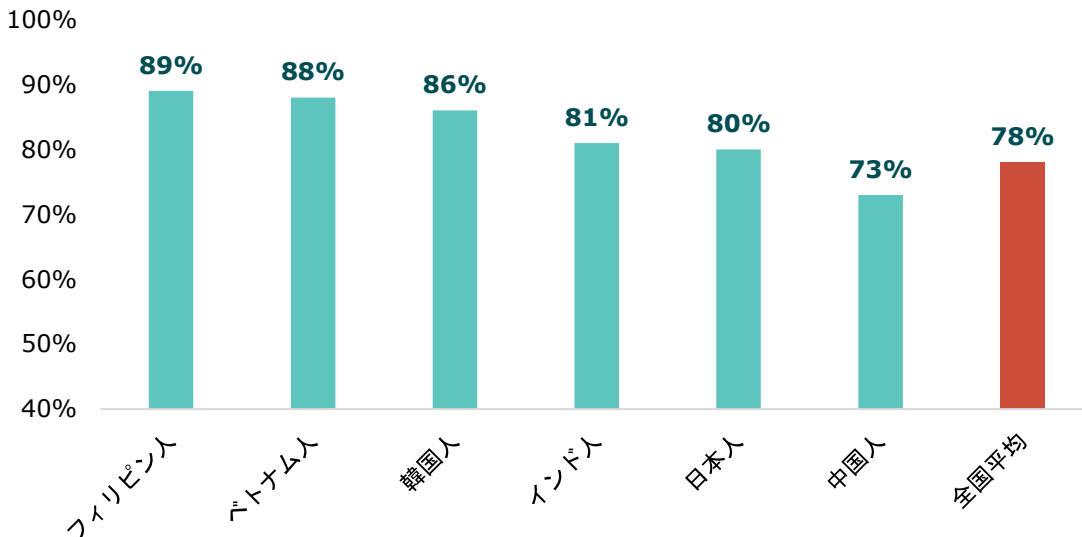
出所：統計局 2018年地域別将来推計人口(2022年)

本改革案について一般から意見を求めます。

## 民族的背景の異なる学習者とその家族による教育現場での体験

エスニックコミュニティ出身の学習者の多くが、優れた学習成果をあげています。NCEA レベル 2 の結果を見ると、フィリピン人・インド人・日本人・ベトナム人・韓国人の学習者はすべて全国平均を上回っています。しかし、コミュニティ間で格差があり、各コミュニティの内部にも個人差があります。

アジア系の民族別に見た NCEA レベル 2 の実績 (選択) : 2021 年

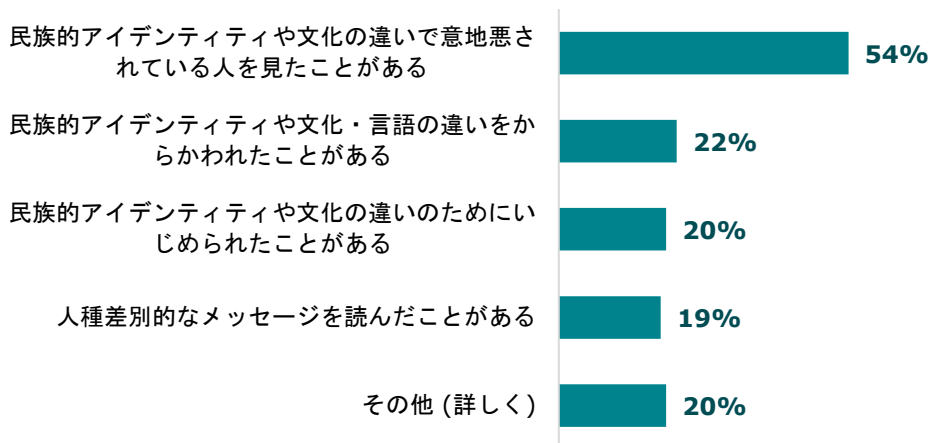


エスニックコミュニティ出身の学習者は、社会や学校の一員として受け入れられていないように感じるものがしばしばあります。学習者のほぼ 5 人に 1 人が疎外感を感じ、3 分の 1 は学校で孤独を感じると回答しています。さらに、ほぼ 5 人に 1 人が、学校では自らの民族的アイデンティティを隠す必要がある、あるいはそれを理由に仲間外れにされると感じています。

「自分の文化に触れ合う機会は、カルチャーウィークだけだと思います」  
中高等学校の学習者

エスニックコミュニティ出身の学習者が日常的に人種差別的ないじめを体験しても、学校側が真剣に取り組まないこともよくあります。アンケート調査の前月に人種差別的ないじめを体験した学習者は 5 人に 1 人にも上り、半数以上が人種差別的ないじめを目撃したことがあると回答しています。学習者とその家族は、人種差別的ないじめの特定、適切な対応を通じて、学校側が事態を改善する必要があると回答しています。

## 学習者が体験したいじめや人種差別的なメッセージ



出所：ERO (教育審議会) 実施の学生調査

「インド料理は手で食べるので、学校へ持って行くのは気が引けます。別のインド人の友だちは、匂いの強いインド料理が原因でひどくいじめられ、学校で孤立しました。それで好きでもないサンドイッチを持って来るようになりましたが、時すでに遅しでした」  
学習者

エスニックコミュニティの家族は、学校とのやりとりで壁にぶつかります。保護者は他の学校活動よりも熱心に保護者説明会へ出席しますが、自分の子どもの学習に関する情報が十分に得られなかったり、わかりにくかったりします。学校の理事会にも、これらの保護者の代弁者はほとんどいません。

エスニックコミュニティ出身の学習者の多くは高等教育機関へ進学しますが、進路の選択方法がわかりにくい、あるいは教師の偏見によって不当に進路が制約されることがあります。中高等学校の学習者の4人に1人以上が、教師に勧められた科目選択は人種や民族の固定観念に基づくものであったと回答し、現在の科目構成に満足している学習者は半数のみでした。学習者とその家族は、NCEA 制度を十分に理解できずにいます。

「卒業後に何をしたいのか、まだわかりません。でも、進級するごとに選択肢の幅は狭くなるし、あらかじめ進路を決めなければならず、焦りは増すばかりです。9年生のときに進路説明がありましたが、それ以来、ほぼ何もありません」

- 11年生の学習者

## 学校が多様なエスニックコミュニティの学習者とその家族のニーズを満たすには...

学習者の文化的背景まで含め、教師がどこまで学習者を理解しているかが、学校体験のカギになります。しかし、これは一朝一夕に築き上げられるものではありません。学習者とその家族は、自分たちの文化に対する教師の知識・認識不足を懸念しています。教師自身も、学習者の文化的および学習的なニーズに対する認識が限られていると報告しています。教師の半数以上が、エスニックコミュニティとうまく連携する自信がないと認めています。教師に誤った発音で名前を呼ばれたことがある学習者は、半数に達します。

## 教育への影響

我が国の今後の教育について考えたとき、次の4つの重大項目が特定されました。

1. あらゆる学校において多様性の高まりに対応する能力が必要です。民族の多様化はオークランドにとどまらず、全国に広がっており、特に学齢期人口に最も大きな変化が見られます。民族の多様化は、文化的価値観や言語の多様化にも反映されています。全ての学校が、エスニックコミュニティ出身の学習者のニーズを満たせなければなりません。

本改革案について一般から意見を求めます。

2. あらゆる学校で人種差別対策に取り組む必要があります。国内には、私たちが想像する以上に様々な人種差別が存在します。あまりにも多くのエスニックコミュニティ出身の学習者が、人種差別的ないじめや人種的偏見を経験しており、この事態を改善する必要があります。
3. エスニックコミュニティ出身の学習者に対し、より良い教育を提供する必要があります。多様なエスニックコミュニティが望む、質の高い学習体験と成果について理解を深める必要があります。その中には、学校の種類や所在地、履修可能な教科なども含まれます。現職教員の文化理解能力を高め、将来に備えて、より文化的多様性を重視した教員育成を図る必要があります。
4. 民族の多様化を国家全体のメリットにするため、エスニックコミュニティ出身の学習者とその家族に対してより良い教育を提供する必要があります。エスニックコミュニティ出身の学習者とその家族は、学習と将来の進路に大いなる期待を持つと共に、母国語の維持も大切に考えています。これらの期待を支援し、あらゆる民族・文化的背景を持つ人々にとって魅力的な国づくりをすることは、教育制度・労働人口・文化・対外関係の強化に役立ちます。

## 将来への影響

多くのエスニックコミュニティの学習者が優れた学業成果をあげていますが、その裏で彼らは人種差別や孤立、自分の文化が理解されないといった悩みも克服しなければなりません。我々には改革が必要です。国の未来をより良い方向へ位置づけるため、今後、5つの重点分野で取り組みを進める必要があります。

1. 民族的に多様な人々と、彼らが教育に求めるものについて理解を深めます。ひと口にエスニックコミュニティと言っても、教育に対する視点・価値観・優先順位には幅広い違いがあるため、教育の枠内でこれらの項目について理解を深める必要があります。
2. 国内のエスニックコミュニティを出自とする学習者のニーズに応える方法を検討します。国内の教育制度に存在する様々な宗教、文化的価値観、民族・人種間の共通部分、言語、アイデンティティなどをうまく調和して前進する方法を意図的に模索することで、より効果的な将来計画を策定できます。
3. 人種差別を認識し、その影響を理解したうえで、差別をなくすためにより効果的な対策に取り組みます。一部の学校では、教師・学習者・その他の人々が、無知や無意識による偏見・固定観念を放置し、エスニックコミュニティ出身の学習者とその家族に影響を与えています。それらは学習者のいじめ体験をはじめ、彼らにかけられる期待や進路の選択肢にまで影響を及ぼします。私たち全員で人種差別をなくさなければなりません。
4. 多様なエスニックコミュニティからの学習者とその家族のニーズにより良く応えられる教員層の育成に積極的に取り組む必要があります。これらの学習者を理解し、その学習ニーズを満たす教員を確保するには、教員改革が必要です。
5. 国内で進む民族の多様化から生まれるチャンスを生かします。民族の多様化によって生み出される数多くのチャンスには、国内の教育制度だけでなく、文化や経済をも強化する可能性があるため、その好機をつかむ必要があります。

これらは一朝一夕に実現できることではなく、長い時間をかけて努力を重ねていかなければなりません。しかし、国内の学習者の4人に1人がアジア系、20人に1人が MELAA 出身者となる 2043 年まで手をこまねているだけでは、これらの青少年だけでなく、国家の社会的結束や経済、ひいてはその未来が多大な代償を支払うことになるでしょう。

本プロジェクトを詳述した報告書は、公式サイトに掲載されています。

[Education for all our children: Embracing diverse cultures. Draft Long-term insights briefing for consultation.](#)

## ERO（教育審議会）の取り組み

多様なエスニック・コミュニティからの学習者にとって、教育が優れたものであるかどうかを理解するため、複数の方法で情報収集を行いました。

- 家族を対象にしたアンケート調査 (回答者 1,250 名)、10 カ国語で対応
- 学習者を対象にしたアンケート調査 (回答者 558 名)
- 教員を対象にしたアンケート調査 (回答者 263 名)
- 8 校の現地視察
- コミュニティにおける集会/フォーカスグループ 7 回
- コミュニティリーダー/回答者 (計 11 名) へのインタビュー
- 8 校の管理職を対象にしたオンラインのフォーカスグループ

多様なエスニックコミュニティ出身の学習者とそのご家族、コミュニティリーダー、学校関係者 (教員・管理職) をはじめ、本調査にご支援・ご協力をいただいた皆様に謝意を表します。皆様から寄せられた貴重な体験談や洞察が本調査の中核を成しています。案件全文は、ERO 公式サイトに掲載されています。

[www.ero.govt.nz](http://www.ero.govt.nz)

- 1 この調査結果は、あなた自身の経験をどの程度反映していますか。
2. 調査結果を読んで最も驚いたことは何ですか。その理由もお答えください。
3. 本調査に不足していることはありますか。
4. 学校はどのような変革をすべきだと思いますか。

本改革案について一般から意見を求めます。